

訪問看護とリハビリの連携について リハビリ事業部 はるかぜ訪問看護ステーション

在宅生活を継続していくためには、様々な職種がチームワークよく関わるのが重要となります。春日クリニックでも、それぞれの事業所が連携を取り、「住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らしたい」と思われている皆さんの在宅生活を支援しています。

今回、訪問リハビリで地域を駆け回る理学療法士の松本さんが「訪問看護と訪問リハビリの連携について」の研修会に参加してきましたので、報告を交えながらその内容をお伝えしたいと思います。

訪問看護では・・・

- ・全身状態の把握
- ・服薬管理
- ・栄養、排泄などの身体ケア
- ・日常生活の把握
- ・在宅での安心した生活援助（支援）

訪問リハビリでは・・・

- ・身体、運動機能の評価
- ・リハ計画、運動プログラム立案
- ・専門的な技術の提供
- ・他職種への技術伝達
- ・在宅での安心した生活援助（支援）

連携



- ・お互いの専門性、考え方を理解する
- ・お互いの視点を大事にする
- ・積極的な意見交換
- ・情報・目標の共有



研修会で感じたこと・・・

講義とグループワークを含め1日の研修でしたが、その中で最も多くの話があったのが「他職種との連携」についてです。

リハビリと看護・介護が同じ時間帯にサービスに入ることができない。またサービス担当者会議もなかなか全員揃わない。したがってお互いの情報の共有が出来ていないという現状の話があり、看護や介護側から「リハビリは何をしているか分からない」といった意見も多く聞かれました。

私たちは、同法人に在宅サービスが揃っており、週5回情報交換の場を設けているため他事業所のような問題を感じることはありません。医療・介護において情報共有はその人の支援に欠かせない重要な要素です。効果的に情報共有ができる春日クリニックの環境の良さを改めて感じ、利用者の支援にしっかり活かしていかなければと痛感しました。
(理学療法士 松本千春)



異なる職種同士では意見の違いもありますが、違う視点で見ることができるところこそ、いろいろな気づきが生まれてきます。その気づきを共有し、それぞれの専門性を発揮することで、大きな力で利用者さんのサポートをすることができます。これからもグループ内での連携を深め支援につなげていきます。

(リハビリ事業部 臼井)